

東京地連第1回中央委員会

地域協議会で全自交要求の前進を図る

3月11日～14日の4日間、主要ターミナルで4000枚の春闘ビラ配布

2014年2月28日 東京地連が第1回中央委員会を開き、3月11日から4日間春闘ビラ配布行動

東京地連は、2月28日（金）午後二時より、全自交会館で2014年「第1回中央委員会」を開催しました。その前段で2月18日に開催された、「関地協・東京地連春闘討論集会」で承認された春闘方針を基に作成された東京地連の統一要求書の確認と、投票によるスト権確立と、毎年春の取り組みとして行動している、春闘ビラ配布の日程などが決議されました。

大和田正樹執行委員長は冒頭の挨拶で、タクシー改正法の下で新たに発足された「東京都特別区・武三交通圏の準特定地域協議会」に労組側の構成員として参加したことを報告し、「旧特措法の下で国交省、関東運輸局などに労組側構成員として地域協議会への参加要請をしても受け入れられない経緯がありましたが、ハイタクフォーラムとしての再三の要求に対して、やっと認められることになりました。今後はその地域協議会の中で私たち全自交労連としての要求が通るような協議を進めていきたい」と抱負をのべて、さらに「現在、私鉄総連との共闘組織として結成している『東京ハイタクフォーラム』を、交通労連も含めて実現し、協議体として発展させていきたいと語りました。

春闘ビラに関しては3月11日から14日にかけて、東京・新宿・池袋・渋谷など主要ターミナル駅で28人の動員をかけて約4千枚を配布し、東京で働くタクシー労働者に、共闘を訴えかけました。各単組の春闘取組に関しては、今後の機関会議で集約して報告していきます。